

200

1989-1

No.244

【表紙】

蒔絵福寿草小盆

松田 権六

1911年作

・解説は30ページ

題字デザイン・桑山弥三郎
カット・林美紀子

もくじ

特集：平城宮跡発掘三十周年

ついで

平城宮跡発掘三十周年

坪井 清足 4
青木 和夫
工藤 圭章

平城宮跡発掘三十周年のあゆみ 鈴木 嘉吉 13

長屋王宮と平城京 平野 邦雄 16

都道府県のページ

(我が県の文化行政⑩)

湖国の文化行政 滋賀県教育委員会文化部文化振興課 18
—文化部創設十三年—

(特色ある博物館・美術館紹介⑩)

易しく、楽しく、賑やかに 京都府京都文化博物館 21

第4回国民文化祭さいたま89 第4回国民文化祭
公募部門 募集要項決まる 埼玉県実行委員会 23

文化庁だより

報告

昭和63年度文化振興会議 26
・東部地区文化振興会議 26
・中部地区文化振興会議 27
・西部地区文化振興会議 28

●文化庁行事報告及び予定 30
●国立劇場ニュース 31

て い 談

平城宮跡発掘三十周年

三十周年

坪井清足 青木和夫 工藤圭章

坪井 戰後の平城宮跡の発掘が始められる原因の一一番初めは一条通りの拡幅からです。今の航空自衛隊の幹部学校が、その時分、米軍の基地で、その基地から奈良の市内へ行く道と西大寺へ行く道が、狭いので拡幅しようと話がありましてね。昭和二十五年の文化財保護法の制定により、特に重要なものを特別史跡にすることになり、平城宮跡もその一つとして、昭和二十七年に特別史跡に改められたんです。特別史跡にしてだから、その範囲を道路が通つたら困るという話があつたんですよ。北へ持つて行けばよいということなんですねけれども、指定地の北のほうは遺跡がわかつて線引いてあるわけじゃなくて、このへんまで含まれてるだろうということで、

側溝沿いにずっと掘立柱が出てている。これは緊急調査しなければいかんということになつたわけです。ちょうど昭和二十八年の秋の正倉院展の特別招待日でした。それで調査しなければいかんということになつたのですが、その時はもう年度の途中の十一月だったから、ろくに予算がなかつたわけです。

工藤 科学研究費を取つたんですね。

坪井 それで国営発掘に準ずる調査ということで発掘調査をして、でき立ての奈良国立文化財研究所のメンバーと、奈良国立博物館、奈良県、それから奈良女子大講師の釣田さんたちが合同で調査団を作つて調査した。

工藤 調査団長が原田淑人先生でしたね。坪井 ともかくその時代の専門家を集めめた混成部隊で発掘したわけですね。そしたら百メートルを超える細長い掘立柱の大きな建物があるということがわかつた。普通の遺跡では、これだけ長大で細長い建物なんかがあるわけはないから、臨時の寄せ集めの組織じやなくてちゃんとした組織でやる必要がある。

そのためにはちょうど昭和二十七年にできた奈良国立文化財研究所（以下奈文研と略）に、歴史と考古の研究室、建築史の研究室があるから、そこを中心にはじめ、文化財保護委員会が、それべきだというご意見が、原田先生や藤田亮策先生からあって、文化財保護委員会が、それに対応しようということになつた。昭和二十八年の暮れから二十九年の一月にかけて、二

十日ほどの冬休みに発掘をして、三十年に恒久的な発掘調査研究体制を作つたということになつたんです。二十九年の秋に奈文研初代

所長の田沢坦さんが、私に「君、平城宮跡を掘るんで、研究所へ入らんか」ということで

お誘いを受けた。だから、考古分野は田中一郎さんと私とで、組織を増やそうということ

で、私が入ることになった。

それで昭和三十年に科学研究費の三百万の一部分で夏にともかく平城宮跡を掘りましようということで、二週間以上やつた。この発

掘は奈文研が中心になり、奈良県や博物館の人たちにも参加してもらつてやつた。その時

に問題になつたのは、宮殿遺構だから、軸線

をはつきりさせる必要がある。そのためには

大極殿周辺がいいだろうということになつた。

大正時代の上田三平さんの調査で、掘立柱の

築地壇の添柱の出ている遺構がいくらかわか

つてると、大極殿を取り囲む回廊の東南の

隅がわかつていいるので、そこを再確認して

宮殿全体の計画の中軸線を出そうという調査

をしたんです。

青木 そのころは第二次朝堂院なんてい

う言葉はなかつたです。

坪井 この調査の結果、第一次大極殿とい

う言葉を付けました。というのは最初掘つて

みて、そこで出てくる瓦が必ずしも古くない

と考えたんです。平城宮は一キロ四方と考え

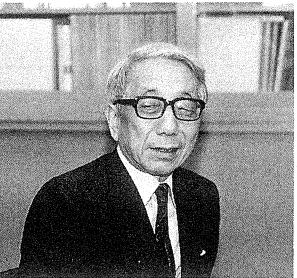
ていらざましたから、関野先生が大極殿だろ

うと推定された所の中心が朱雀大路の突き当

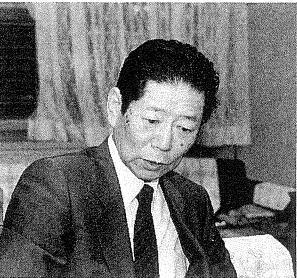
特集 平城宮跡発掘三十周年



工藤圭章氏



青木和夫氏



坪井清足氏

文化庁文化財保護部文化財鑑査官

お茶の水女子大学教授

(財)大阪文化財センター理事長

奈良国立文化財研究所（以下奈文研と略）に、歴史と考古の研究室、建築史の研究室があるから、そこを中心にはじめ、文化財保護委員会が、それべきだというご意見が、原田先生や藤田亮策先生からあって、文化財保護委員会が、それに対応しようということになつた。昭和二十八年の暮れから二十九年の一月にかけて、二

奈良国立文化財研究所（以下奈文研と略）に、歴史と考古の研究室、建築史の研究室があるから、そこを中心にはじめ、文化財保護委員会が、それべきだというご意見が、原田先生や藤田亮策先生からあって、文化財保護委員会が、それに対応しようということになつた。昭和二十八年の暮れから二十九年の一月にかけて、二

発掘のきっかけ

一筆ごとに指定したから、北が凸凹なんです

よ。それは字によつたためで遺構と無関係の

細長い田んぼがあつたら、遺構としてはここ

が北限だと見当を付けていても、そこより北

まで字が広がつていると、その一筆全部を史

跡にしたので北の指定境界線は凸凹なんです

よことなんです。そういうことがあつた上で

が北限だと見当を付けていても、そこより北

年に北側を追加指定した。その追加指定の時に字でやつたものだから、凸凹になつたといふことなんです。そういうことがあつた上で

が北限だと見当を付けていても、そこより北

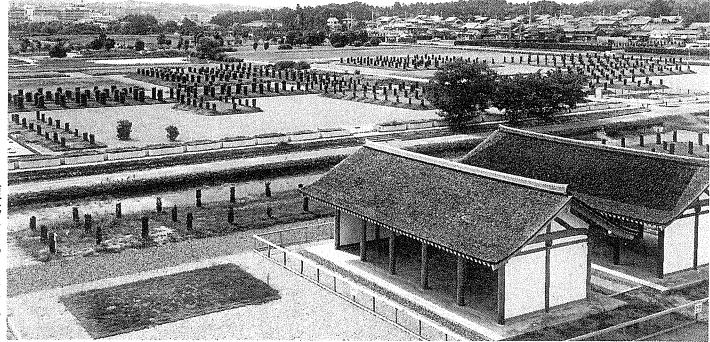
まで字が広がつていると、その一筆全部を史

跡にしたので北の指定境界線は凸凹なんです

よことなんです。そういうことがあつた上で

が北限だと見当を付けていても、そこより北

— 4 —



復元した宮内省調査課

工藤 目にチカチカきましたものね。

青木 ぼくには嬉し涙。（笑い）

工藤 それと日光を当てないようなどう

んで、脱脂綿でくるみましたねえ。

青木 今でもそれはやつてらっしゃる。要

するに光に当てないことと空気から遮断して

酸化させないために。

坪井 話があちこちいくけれども、木簡が

出で来たので、泥棒をつかまえてから縄をな

うの最たるもので、どうやつて保存するかと

いうことになつたわけです。話が前後するけ

れども、ぼくが昭和四十二年に歴史博物館関

連の施設を見るためにヨーロッパをずっと回

った時に、デンマークの国立博物館のラボラ

トリリーに行きました。そこのボロルセン・

クリステンセンという先生に偶然お目にかか

つたんです。木材の処理では今でも一番進ん

だ方なんですが、先生はPEG法、凍結乾燥

法などを開発しておられた。PEG法という

のは、埋没木材の中から樹脂がしみ出して水

に置き代わっているので、この水を強制的に

追い出して、合成樹脂を注入するという方法

なんですね。ところがPEG法だけだと真っ黒

になるんですね。PEG法は東京国立文化財

研究所の人も知つてたわけだけども、それだけだと黒くなつてしまふので木簡では墨の字

が読めなくなるわけです。これじゃ困るので

ぼくらも気にしていたんだが、クリステンセン氏のやつてる凍結乾燥法だと色が黒くならないで済むということがわかつたんです。それを木簡にも取り入れるべきだということで、

保存科学の沢田正昭さんにも入つてもらつて研究し、始めて、それに成功したんです。沢田さんがクリステンセン氏の所へ留学し、いろいろ実地指導を受けて、それが今日に至つてゐるわけです。

青木 木簡が出たから歴史学者はあわて出

たりになく、東に寄つてゐる。

青木 初めの指定がだいたいそうですが

ね。

坪井 そういうふうに考えておられたんだけども、藤原宮みたいに古いものが宮城の中

心にあつて、ある時期にそれがこつちに移つて來たんじやないかという仮定を立てみた

わけです。出て來たものも若干新しいですしね。それで第二次朝堂院、大極殿ということ

を、その時に言い出したわけです。

青木 最初は一キロ平方だというのは、その時言

が実は約二キロ平方だと思われていたの

われ始めたのですか。

工藤 広がつたのはまだずつとあとです。

ちよほどそのころ奈文研で興福寺の食堂の

発掘もやつてしまつてね。興福寺は和銅創建の

寺だということで、そこから出でてくる瓦と大

極殿回廊の東南隅から出でてくるのとは様式的

に違う。大極殿で出で來るのは新しい。やは

り年代が違うんじやないかというのがあるます

第一点、第二点は、平城宮の中心の所にまば

ちばち土壇の高まりがありましてね。でも今、

坪井さんがおつしやつてるように、やつぱり

真ん中に本来の朝堂院があるべきであつて、

そこが第一次で、そこからここに移つたんじ

やないかという仮説を立てたわけです。それ

がずばり当たつたわけですよ。その当時で

はかなり新しい説だつたわけです。今、大極

殿回廊の話が出ましたけども、これも上田三

平さんが、大正十一年に史跡指定され、その

整備工事をやつた時に、回廊がちゃんと回つてゐるじやないかということを書いていらつしやるわけです。

ですから、平城宮の発掘では第一次調査の東南隅の所でまず年代の問題が出る。第二次調査では第一次調査の東南隅の所でまず年代の問題が出る。第二次

で地回廊と呼んでますが、その一部分を掘つてゐるんです。それは第三次で掘ることになるんです。それが要するに今お話しのあつた二十九年発掘の長い建物に連なつていくわけです。

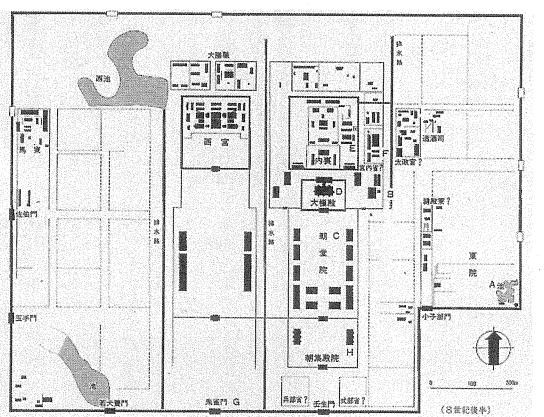
ですから、平城宮の発掘では第一次調査の東南隅の所でまず年代の問題が出る。第二次

で地回廊と呼んでますが、その一部分を掘つてゐるんです。それは第三次で掘ることになるんです。それが要するに今お話しのあつた二十九年発掘の長い建物に連なつていくわけです。

青木 初めて坪井さんに木簡を見せていましたが、まだはつきりした保存方法が確立してないし、要するに水に漬けとくのが一番安全だと考えられていました。坪井 それまでに出てきた木製品はともかく水に漬けておいたらある程度の変形が防げます。ところが水に長いこと置いておくと水が腐敗するからというのでホルマリンを入れたんですよ。全くこの分野の素人ばかりだから入れすぎで涙がいっぱい出るようなことがありますねえ。

青木 初めて坪井さんに木簡を見せていましたが、まだはつきりした保存方法が確立してないし、要するに水に漬けとくのが一番安全だと考えられていました。坪井 それまでに出てきた木製品はともかく水に漬けておいたらある程度の変形が防げます。ところが水に長いこと置いておくと水が腐敗するからというのでホルマリンを入れたんですよ。全くこの分野の素人ばかりだから入れすぎで涙がいっぱい出るようなことがありますねえ。

平城宮跡の先駆的役割



は二十四年で北方の官衙群、ついで平城宮跡調査事務所を建てるので第二次調査を行つたら大極殿の後ろに内裏が出てきた。一次、二次、三次ぐらいで重大な発見が、並んでずっと出でくるわけですね。今考えたら、毎日掘るたびに新しいものが出るという感じだったですね。

したというか、私なんかは最初は奈文研に通つて奈文研で作つておられたガリバン刷りの絵文を一所懸命、原稿用紙に写しました。何年もやつてましたか、そのうち大量に出すぎちやつて、とてもこれでは駄目だという気になつて来ましたけれども。

発掘のほうでも三十六年暮れから三十七年の初めにかけての近鉄の車庫の建設設計画で西へいつぶんに広がつたんじやないですか。

坪井 今までの指定地の範囲はすべて遺構があるということが、第二次の発掘で証明でてきた。さつき工藤さんの言われた第三次で調査基地を造らなくてはいかんというので、建物を建てる所を掘つたら第二次内裏の様子がわかつてきましたというのですね。初めは今でいえば中心部を掘つていてたわけですけれども、そつこうしているうちに昭和三十七年に近鉄が当時は指定外だった土地の買収を始めたわけです。近鉄が線路の西南のほう、平城宮の西南隅に車庫を造ろうという計画をして、買収にかかり近鉄から発掘届が出てたんです。周知の遺跡としての届が出来ましてね。その届に対し重要な遺構が出ない限りはやつてもよろしいということになつた。

そういう書類があるのを、朝日新聞の記者がすつぱ抜いたわけです。それが大きな問題になつて、平城宮跡を保存しようという請願が国会にまで行つた。その時、太田博太郎先生などが日本の大型の史跡が守れるか守れないかの天王山だ、これに失敗したら全部つぶ

平城宮跡発掘三十周年

特集

れただけでも、天皇がよそへ移つてしまつたら活力がなくなり、水田になつてしまつた。ところが水田がどんどん宅地化されるようになって来たら、それに対抗するためには、現代の生活の中でその遺跡に活力を与えて、それが生きていく力を付与しなければ保存できない。そうすると史跡公園という、今の中でも史跡は将来どうするんだ、ということをいろいろ話しているなかからそういう考えが出て来たわけです。そしていよいよ夢みたいな買上げができるようになつた。そうすると今度は整備手法の問題になつたんです。

青木 発掘なさつた側が、その後の復元、整備の方法を考えられたと思うんですが、整備されたのを拝見する私たちとしては、昔の大先生方は想像力がきちんとしておられるから、草ぼうぼうであつても昔の姿が、はつきり目に浮かばれるんでしょけども、われわれくらいの中途半端な人間は建物一つにしたつて、どう空想していいかわからない。やはり、建築史の方々が、例えば柱の高さ、屋根の角度などを、研究成果としてどんな形でお出しになるのか、まずそれを拝見したいといふのがばくちた素人の気持ちです。

坪井 そういう意味では八世紀の奈良時代のものは、少ないながらも実物が残つてゐるから、ある程度復元できる。それに比べたら

飛鳥時代はどうにもならないわけです。何もないんだから。飛鳥寺なんかで、そういう形の整備ができない原因是そこにあるんです。発掘と保存についてはぼくは薬師寺の橋本凝胤さんにえらく怒られた記憶があります。飛鳥寺で回廊と東金堂なんかは非常によく出来たわけですよ。橋本凝胤さんは、そのまま埋めてしまわぬで見せろと言われたわけですが、われわれにしてみれば田んぼを借りて来たわけです。それでええのか。けしからんと怒られましてねえ。そういう経験もあって史跡公園という発想へずっとつながつて来ました。

青木 私は明治から戦前までの史跡指定の範囲を見ると非常に広大なので、昔の内務省は、戦前にも時にはなさつたのかもしれませんが、戦後は日本全国で現地説明会が行われていますね。

坪井 現地説明会はぼくが始めたことですね。それまでは全然そういう形ではなかつたんです。

青木 工藤 現地説明会の前の日は大変でしたよ。徹夜でガリ版切つてましたからね。

坪井 その後平城の全域が一応確保された。だけど、まだ三〇%しか掘れてないので、まだ発掘を続けなければならない。ちょうど奈良市が段々と拡張して、昔、水田だった西のほうの平城京の中心部分がどんどん開発されて来た。ですから、研究所も緊急調査に伴つて平城京のあちこちの部分を発掘をした。この間の長屋王邸跡は、まさに百貨店を建てるための調査で出て来たのですが。宮跡だけじゃなくて宮を支えていた都市そのものを、破壊を防ぎ、保存しなければならないし、特別大事なものは遺構がある程度残す必要があるということで緊急調査をした。だから、宮の調査だけではなくて、奈良時代の都全体の調査ということで、奈良市と奈良県にも調査組織を作つてもらつた。だから、三十年間でこれまで中身がわかるようにならうとは、われわれには夢みたいですね。

工藤 最初はこんなになるとは考えられなかつたですね。

青木 全く危険な時期というか、日本の高

の上に載せた土を転圧して、その上にコンクリート・ブロックを置いて、さらにその上に鉄骨で屋根をかける。二十八メートル四方の屋根で大きくてたわむから、周りへバランスを付けたヤジロベエみたいなものを設計してもらつたんです。

青木 三棟ありますね。

坪井 地下へ影響を与えないために、遺構の上に載せた土を転圧して、その上にコンクリート・ブロックを置いて、さらにその上に鉄骨で屋根をかける。二十八メートル四方の屋根で大きくてたわむから、周りへバランスを付けたヤジロベエみたいなものを設計してもらつたんです。

青木 今東京ドームみたいなものは? でなかつたわけです。雨でも発掘できるようにならと言われて。船舶用コンテナを二列に並べた上に屋根をかけ、その中で発掘するとか、いろんなことをやりましたよ。

青木 覆屋ができたのはいつごろですか。

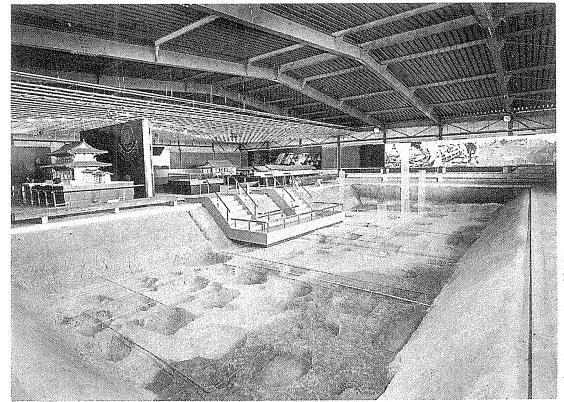
工藤 昭和四十一年にできました。

坪井 A棟はそうですね。それから、B棟、C棟を造つていった。覆屋で覆つて、実物を見てもらうところができたわけです。下の遺構をつぶさないで相当大きな建物を建てることができるというので、その後全国の遺構のあるところで、開発に伴う建物をどうしても建てなければならぬという時に、ずいぶん参考となつてますよね。全国の遺跡の保存と開発とを進める上でのテストケースになつた

ればいかんということで、試しに覆屋を造つた。地下遺構に影響を与えないで、どれだけの建物が建てられるかという検討をいろいろ行い、二十八メートル四方の覆屋のA棟を造つたんです。

青木 今東京ドームみたいなものは? でなかつたわけです。雨でも発掘できるようにならと言われて。船舶用コンテナを二列に並べた上に屋根をかけ、その中で発掘するとか、いろんなことをやりましたよ。

青木 今東京ドームみたいなものは? でなかつたわけです。雨でも発掘できるようにならと言われて。船舶用コンテナを二列に並べた上に屋根をかけ、その中で発掘するとか、いろんなことをやりましたよ。



遺構の露出と覆屋

今でも平城宮跡の真ん中を電車が走つてますので、あの電車に乗つて「ああ、大きな休耕地がありますね」なんて言う人が、いるんですね。(笑い) そんなことがあると何のために買い上げて保存するんだ、一体どうしたらいいんだ、ということになつて、昭和三十三、四年ごろに工藤さんたちと相談して、やはり公園的な整備をすべきじゃないかということがあります。現地にちゃんと刻まれていて、それが史跡公園として整備されていると非常にわかりやすいわけです。ところが史跡公園化することについて世代によつて意見が違います。今でもきっと分かれていると思う

んです。

坪井 今でも史跡というのは「つわものどもが夢のあと」で、草ぼうぼうで過去を忍ぶんだという説の人がある。相当おられますよね。

青木 ええ。亡くなられた文化財保護審議会長の坂本太郎先生は、あまり手を触れるのはお嫌いでしたね。

坪井 だけど、われわれにしてみれば、開発がこれだけ押し寄せてくると、そういう考えでは守りきれんというので史跡を整備したんです。史跡になつた遺跡はもと造られた時は、例えは、宮殿は天皇の住まいとして造ら

奈良国立文化財研究所が昭和三十四年以来継続して行っている特別史跡平城宮跡の発掘調査が今年で満三十年を迎えた。平城宮跡が広く世に知られるようになつたのは関野貞の論文『平城京及大内裏考』からであり、関野が宮跡を実地に測量して宮域や建築配置の調査を行つたのは明治三十二年（一八九九）であつたから、それから数えると九十年を経過したことになる。この間幸いにも多くの人々の支援を受けて史跡としての保存が図られるとともに発掘調査も着々と進んでいる。現在史跡指定地の面積は約百三十一万平方メートル、そのうち国有地は約九十六万平方メートルに及び、史跡地内の東辺や北辺に所在する人家密集地域を除くと買収可能な部分の九五%までも国有化が進み、東西約一・二キロ、南北約一キロの広大な区域が保存されているのである。奈良市も近年の開発・市街化の進行は著しく、指定地の周辺は住宅や商業ビルが次に建てられる状況にあるが、そつした近代

五人くらいで休みもなく、休みは雨降ったときで、土曜も日曜も何もなかつたですよ。夏の暑い時には雨も降らなかつたでしょう。一番多い時で四、五十日連続で掘つたことがあります。

坪井 一番ひどい時は一年間で二百六十六日掘りましたよね。

工藤 とにかく掘つて遺構を見つけることだけが頭にあつて、難しい小説なんか読めないんです。読むのは週刊誌くらいでね。ほかのほうの頭はストップしちやうんです。今思うと、ああいうやり方より、適当に休みをとつて思考能力もちゃんとした状態で発掘するのが一番好ましいですね。

書木 ある程度体力の問題があるから、若い人をどんどん入れて。

坪井 それもあるし、何とか組織を活性化していくんですね。いくら機械化しても最後は人間の目と技術で掘らなければいけない。そうなると作業員十人に対して一人ぐらいは調査員として現場を監督する人がいるわけですね。石器時代の遺跡だつたら作業員ではなくて自分で掘らなければならない。だけども、ああいう官衙遺跡風のものだつたら、作業員十人くらいは一人で監督しなければならない。年間に発掘する面積を決め、一チームとして

五人くらいで休みもなく、休みは雨降ったときで、土曜も日曜も何もなかつたですよ。夏の暑い時には雨も降らなかつたでしょう。一番多い時で四、五十日連続で掘つたことがあります。

坪井 一番ひどい時は一年間で二百六十六日掘りましたよね。

工藤 とにかく掘つて遺構を見つけることだけが頭にあつて、難しい小説なんか読めないんです。読むのは週刊誌くらいでね。ほかのほうの頭はストップしちやうんです。今思うと、ああいうやり方より、適当に休みをとつて思考能力もちゃんとした状態で発掘するのが一番好ましいですね。

書木 とにかく掘つて遺構を見つけることだけが頭にあつて、難しい小説なんか読めないんです。読むのは週刊誌くらいでね。ほかのほうの頭はストップしちやうんです。今思うと、ああいうやり方より、適当に休みをとつて思考能力もちゃんとした状態で発掘するのが一番好ましいですね。

坪井 とにかく掘つて遺構を見つけることだけが頭にあつて、難しい小説なんか読めないんです。読むのは週刊誌くらいでね。ほかのほうの頭はストップしちやうんです。今思うと、ああいうやり方より、適当に休みをとつて思考能力もちゃんとした状態で発掘するのが一番好ましいですね。

たということですね。

坪井 間に合わなくて、どんどんつぶれていく所もたくさんあるんです。

工藤 発掘の作業も一番最初は調査員が四、

五人くらいで休みもなく、休みは雨降った

ときで、土曜も日曜も何もなかつたですよ。

夏の暑い時には雨も降らなかつたでしょう。

一番多い時で四、五十日連続で掘つたことがあります。

坪井 一番ひどい時は一年間で二百六十六日

必要な人数は初め十人単位で考えた。そして期間は三ヵ月。それが四チームぐらいで交代で年四回、大きな発掘をやりますというふうなことでやつたわけです。それが今や十人

が八人になり七人になり、五人くらいになつてるんじゃないですか。

工藤 六人くらいでしょうね。

坪井 果たして目が届くんだろうかという心配があるんですよ。

しかし、これから課題はずいぶんありますね。

工藤 そうですね。今、三ヵ月を一つの区切りとして掘つて、あと九ヵ月で遺物の整理とか図面の作製、報告書の作製をする。しかし発掘が忙しくなれば、必然的に遺物の整理が、遅れて来るわけですね。

坪井 だから、報告書なんかも初めのころは発掘後一二年くらいで出せていたけど、今はもう十年ぐらい前のことが、ようやく報告書になるというようなことになつてきて、ついぶん矛盾が生じて来てるんですよ。

平城のフィールドを掘つてているということ、それから、いろんな知識を集約できるということ、それが基盤となつて埋蔵文化財センターが研究所につくられた。ここで全国で発掘調査をしている人のアドバンス・コースとしていろいろな研修が行われています。平城宮跡調査をさらにレベル・アップしていくためにも、平城宮跡は将来どうあるべきかといふことについて、もう一度文化庁として基本

的に考え直してもらう必要があるんじゃないですか。

工藤 よりよい発展を目指してということですね。

坪井 それは初代の田沢所長にばくが入った時に言われ、ばくは後から人所する人に言つてるんだけど、「文化庁の文化財保護部の技官（研究職）は、結局、行政と現地での研究と博物館の展示の三位一体で、それぞれ適当な時期にそういうポストを歴任して、研究で蓄えた知識で行政をどういうふうにするかというようなことをやるんだ」。これが非常に大事なことですね。だから、単なる研究機関だけではなく、研究した成果を行政に反映する、あるいは博物館の展示なんかにそういうものを反映して、文化財行政のありようを正しく進めて行く。田沢所長の言葉に従つてあとの人にもみんなそういう伝えているのです。

今、平城宮調査で育つた人が、日本各地に散らばつて行つてます。平城宮跡はそういう意味で一つのスクールでもあつた。現に埋蔵文化財センターでは、まだいろいろな研修コースを設けて指導を行つてますしね。坪井 それは初代の田沢所長にばくが入った時に言われ、ばくは後から人所する人に言つてるんだけど、「文化庁の文化財保護部の技官（研究職）は、結局、行政と現地での研究と博物館の展示の三位一体で、それぞれ適当な時期にそういうポストを歴任して、研究で蓄えた知識で行政をどういうふうにするかというようなことをやるんだ」。これが非常に大事なことですね。だから、単なる研究機関だけではなく、研究した成果を行政に反映する、あるいは博物館の展示なんかにそういうものを反映して、文化財行政のありようを正しく進めて行く。田沢所長の言葉に従つてあとの人にもみんなそういう伝えているのです。

特集 平城宮跡発掘三十周年

三十周年のあゆみ

奈良国立文化財研究所長 鈴木嘉吉



で最初の基盤が築かれた。大正十一年に史跡指定が行われたが、その後昭和六年に朝堂院

地区の東北方の水田中に立派な石積の溝が発見されたことから昭和十一年追加指定を行い、

宮域の三分の二ほどが指定地となつた。しかし以後は調査もなく、昭和二十八年に宮跡北部を東西に貫通する道路が開削された際、偶然に掘立柱建物跡が発見されたため道路敷地の一部があわてて発掘した程度である。ところがこの新しい道路に沿つて住宅や店舗が次に建ち始めるとき事態は深刻化し、規制の緩和を求める住民大会が開かれるまでに至つた。

そのため本格的な発掘調査によつて現在は何でもない水田の下にも貴重な遺跡が存在することを証明し、それを守ることの重要さを訴えることが行政当局のますますべき仕事であるとして発掘が始められたのである。

指定地内の発掘で平城宮には中心の朝堂院や内裏を囲んで多くの官衙が配置されていたことがようやく判り始めたころ、宮域の西方三分の一に当たる未指定地に近畿日本鉄道が検車区を建設する問題が起つて、昭和三十七年には平城宮跡保存の全国運動が展開された。

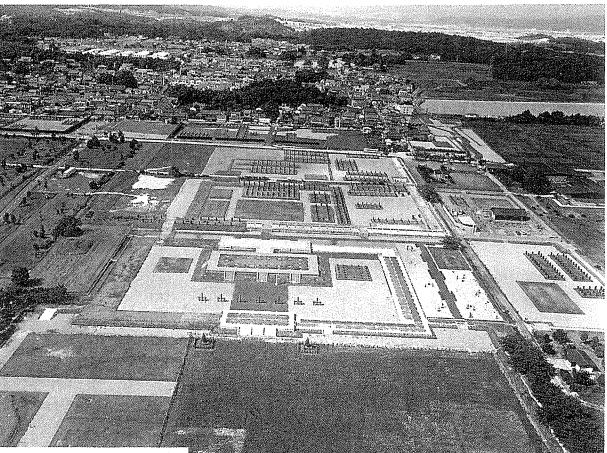
その結果翌年から、保存のための土地買収経費が予算計上されることとなり、方八町に及ぶ宮域全体を保存する目途がついた。我が国

の文化財保護行政はじめての画期的措置である。宮域の外郭を示す門や築垣の発掘が行われ、昭和四十年には西方地域が史跡に追加指定された。こうして保存問題も一段落と思

特集 平城宮跡発掘三十周年

たのも大きな収穫といえよ。遺跡は四～五期の重複をもち、宮内の建物は短期間で建て替えられている。こうした各期の年代や官衙名等の推定には木簡や墨書き器が重要な役割を果たしている。特に木簡は地方から都へ送られた物資の動きや役人の勤務状況のような当時の制度の実態を明らかにする点で貴重な史料である。瓦や土器など出土遺物がほぼ二十年単位で細かく分類できるのも、伴出する木簡に年号が記されているため、平城宮での分類が全國の奈良時代遺跡の基準となっている。平城宮跡の発掘は前半の十五年ほどは保存地域を確定するため周辺の官衙地区や門などを調査したが、後半では中心部の解明に力を注ぎ現在はその約四分の三まで進行した。中心部はあと数年で終わる予定で、その後は東院地区の本格的調査が計画されている。

平城宮跡ではこうした発掘と平行して遺跡の修景整備事業が進められている。発掘された遺構はそのまま露出しておくと破損してしまうので、一部に覆屋をかけてここを遺構展示館としているほかは保存のため埋め戻すのが原則である。そしてその上部に掘立柱の場合は樹木で柱位置を示し、基壇建物では基壇と礎石を復元的に造成するなどによって宮殿や官衙の建物配置が判るようにしている。さらに宮内省と推定される官衙地区や南面の大垣では実物大の建物や築地塀の復元を行い、より立体的に古代の宮城の姿が実感できるよ。



平城宮の大極殿と内裏の整備状況

えた昭和三十九年に、今度は宮跡東側で国道バイパスを通す計画が持ち上がったため、その予定線を発掘すると從来考えられたように平城宮が約一キロ四方の正方形の区郭ではなく、東院が張り出すことが明らかになった。そのため路線の変更を求め、昭和四十五年に東院地区を追加指定することができた。その後は昭和五十四年に宮城南辺の旧二条大路部分も追加している。発掘の結果、それまで指定境界が南辺築垣までであり、朱雀門やは

壬生門など重要な遺構の南半分が保存区域の外となることが判つたためである。このように昭和三十四年以来の発掘調査は遺跡の解明と同時にそれをテコとして保存区域の拡大に大きな役割を果たし、ようやく今日宮城全体を保存することができるようになったのである。

現在までの発掘調査による成果のうち主なものあげると、まず第一に東院の張り出しがあって、藤原宮や平安宮のように正方形の区画ではなく、その用途も特殊な性格があつたらしい点がある。東院の東南隅には石組みを並べた池を中心にして、第一次大極殿は広い前庭をもつ高い台上に位置して、あたかも中国長安の大明宮含む第一次区画にはほぼ同じ配置で掘立柱による前身の大極殿・朝堂が存在し、それは第一次と併存した。藤原宮の大極殿・朝堂院が瓦葺、基壇付きの中国宮殿風建築で造られた後は、中心の儀式用建物や四面の築垣・門は中国式、内裏や官衙は掘立柱の日本式建物という図式が成り立つものと見られていたのだが、第二次区画にはほぼ同じ配置で掘立柱間に似た特異な形式をもつ点は大極殿の歴史を考える上で大きな問題を投じた。さらに第一次から第二次へと移行したのではなく、第二次区画にはほぼ同じ配置で掘立柱間にあって一方は特異な中国式、他方は掘立柱式という予想外の宮殿形式である。何故このような形式が生まれ、第二次には通常の基壇付き建物に改作されたのかが、平城宮の大きな謎となっている。なおこの第二次区画の中央の空地に大嘗宮の遺跡が三回分発見され



大嘗宮正殿の柱穴。後方に大極殿が見える。

文化財を火災から守ろう

来る1月26日(木)は「第35回文化財防火デー」(主唱 文化庁・消防庁)です。

この日は、昭和24年に法隆寺金堂の壁画が焼損した日にあたります。また、毎年この時期は、特に火災が多く発生していることから、この日を中心として文化財を火災、震災、その他の災害から守るため、全国的に文化財防火運動を展開し、国民一般の文化財愛護思想の高揚を図っています。

みんなで守ろう文化財

1月26日は文化財防火デーです



文化庁・消防庁

うに試みている。西部地区には発掘品を展示する資料館も設けている。これらは発掘の成果を広く理解していただきために昭和四十年代に文化庁により平城遺跡博物館の基本構想がまとめられ、以後はかなり急ピッチで整備が行われている。基本構想は平城宮跡が歴史を学ぶ博物館であると共にレクリエーションの場としても活用されることを打ち出していいるが、現に宮跡を訪れる人は年間四〇万人以上に達し、発掘・研究の成果と共に広大な緑の空間を楽しんでいるのである。一昨年から発足した関西学術研究都市建設設計画の中で、平城宮跡は文化財ゾーンとして組み込まれ、朱雀門の建設や博物館施設の充実など整備の

一層の促進が望まれている。二十二年後の遷都千三百年までは平城遺跡博物館が完成することを期したい。

なお調査部の発掘は近年では開発のため破壊が進む京の部分に手をさくことが多くなった。なかでも昭和五十一年に発掘した宮東南方の庭園遺跡、一昨年から継続中のその北に接する長屋王邸宅跡などは大きな成果をあげており、特に後者は三万点にも及ぶ大量の木簡が出土して当時の貴族の生活や経済の実態が明らかになりつつある意義は大きい。宮とともにこうした京内の遺跡も奈良時代の歴史や文化を知る上に重要であり、両者を並行して調査しなければならないが、それには研究所職員の不足が最大の悩みとなっている。

長屋王宮と平城京

東京女子大学教授

平野邦雄



今からわずか数か月前、昭和六十三年八月、

平城京の左京三條二坊七・八坪の地から、「長屋親王宮」の存在を示す推定三万点にものぼる木簡が発見され、学界に衝撃を与えた。

すでに、おなじ條坊のなかの南に隣接する六坪の地から、昭和五十五年の初め、石組と石敷の園池と、それに付属する建物跡が発掘されていて、「北宮」という木簡が発見された。

「北宮」とは、長屋王の妃吉備内親王の殿舎であろうと思われ、今回の木簡にも「北宮」とある。長屋王は天武天皇の孫で、吉備内親王と結婚したが、内親王もまた草壁皇子の女で、いざれも名門中の名門である。この殿舎は、少なくとも一、三、六、七坪にわたるから、平安京の摂関家の邸宅で四坪を基準

とするものと共通するか、あるいはさらに広く六坪におよぶかも知れぬ。この殿舎がもじり長屋王の「佐保宅」と別なものとすれば、王が結婚によって、内親王宮に同居し、そのため「長屋親王宮」と呼ばれるようになったとも考えられる。

その家政機関は、木簡を垣間見ただけでも膨大なもので、家令・家扶・家從・書吏の四等官はじめ、多くの帳内・資人を中心には令所・政所以下、多種類にのぼる司・所をもつて構成されていた。その所有する封戸・水田・御園などから送られる物資や、朝廷から給される俸禄・食料なども記録されている。

これらの実体は、律令や六国史などによつては知ることはできない。木簡の解説・解析を通じてはじめて明らかになる分野である。

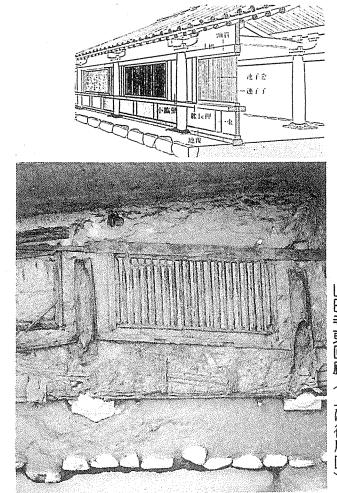
長屋王は剛直な政治家で、仏教をもあつく信じた。木簡の主たる年代にあたる和銅ノ養老(七〇八~七二三)の間に、王は式部卿・大納言・右大臣と進み、從三位・正三位・從

二位にいたり、内親王は三品であった。家政機関はこの二者のそれを合体したものである。王はこの後左大臣・正三位となるが、突如、左道を学び、國家を傾けようとしたときの罪に問われ、自尽せしめられ、妃の吉備内親王は許されるが、王のあとを追い自らの命を絶つのである。「長屋親王宮」という称呼は、律令制からいえばありうべきことではないが、そうすれば、聖武天皇と光明子には、皇嗣としての男子はなかったのだから、王を皇嗣に擬する空気があったことになる。藤原氏と衝突する理由はそれだけで十分である。

平城宮発掘三十周年を迎えるときに、悲劇の長屋王は、一大史料群という歴史学にたいするこよなき贈物を残すことによって、現代によみがえつたといわねばならぬ。

平城宮発掘三十周年を迎えるときに、悲劇の長屋王は、一大史料群という歴史学にたいするこよなき贈物を残すことによって、現代によみがえつたといわねばならぬ。

平城宮発掘三十周年を迎えるときに、悲劇の長屋王は、一大史料群という歴史学にたいするこよなき贈物を残すことによって、現代によみがえつたといわねばならぬ。



山田寺東回廊（上は復原図）

の奇しき運命といつてよい。

これと共通する遺跡に、福井の一乗谷朝倉氏の遺跡がある。朝倉氏は敏景から義景まで五代、この一乗谷に城郭と居館をかまえ、戦国武将として初期の城下町を形成し、家臣を集住させ、商人もこの谷に店舗を営んだ。しかし、一向一揆に手を焼き、將軍足利義昭を迎えながら、策なくして織田信長に屈する。朝倉氏は一挙に滅ぼされ、後を継ぎ近世城郭を築くものもなかつたから、遺構はすべて地下に埋もれ、北国の風雪のなかに数百年にわたって当時のままの姿を保ちえたのである。この遺跡も、発掘によってその全容を地上に現しつつある。

長屋王の宮宅も、王と妃の死により、建物は破壊され、資財は没収されたであろう。それでは養老から王家の亡びる神龜六年までの木簡群はどうしたのであろうか。どこかに眠つてゐるにちがいない。木簡もまた一挙に廃棄されたため特定期間の王家の姿が凍結されただよに残りえたのではなかろうか。



山田寺の東面回廊は、東側の丘陵からの土砂流によって、一挙に倒壊し埋没したと推定される。その建築構造は、礎石上の円柱・柱上の大斗・柱間の貫・長押、また下地をわたし、木舞を組んだ土壁・連子窓などが数間分にわたって、倒壊した形のままで発掘されたのである。現存の法隆寺よりも古い、飛鳥様式をそのまま長く維持した寺院の遺構が、地中から現代によみがえつたといわねばならぬ。

長屋王といい、蘇我石川麻呂といい、平城京と飛鳥京の双方において、その遺跡をもつとも完全なかたちで再現させたことは、歴史

さて、朝倉遺跡が領主の城・館・庭園はもちろん、武家屋敷・商家を含む広大な遺跡であることはいうまでもないが、長屋王宮も山田寺も、宮内にある遺跡ではなく、京域に存在している。飛鳥京・平城京とともに、京域に存在する遺跡こそが重要であり、歴史学から

平城宮跡発掘三十周年を迎えるに当たって、平城宮跡発掘三十周年を、「平城京跡発掘調査部」に改め、あらたな段階に立ち向われるよう心から希望したい。

